

# ご近所のお医者さん

  
470  

森下眼科院長 **森下清文さん** 一大阪市北区

## 10月は「目の愛護月間」

今月10日は「目の愛護デー」です。その始まりは1931(昭和6)年にさかのぼります。現在は厚生労働省が主催し、毎年、目の健康に関する活動が展開されています。

私たちは外界からの情報のほとんど

を目から

得ていま

す。72年

の調査で

は82%とされてきましたが、今やスマ

ートフォンやタブレットなどの普及も

あり、90%以上と言われています。

今、国内のコンタクトレンズ使用

者は約1600万人で、その10%に

眼障害が認められます。コンタクトは

高度管理医療機器であり、正しい使

用と眼科医による処方管理が必要で

す。

ドライアイの患者は推計約2200

万人に上ります。涙の個別治療が始ま

り、点眼にムチンが登場したことで多

くの方の症状が改善しています。

緑内障は40歳以上の5%、70歳以上

の10%にみられますが、自覚症状が

ないこともあり、実際に治療を受け

ている人は10%です。多くの点眼薬

が開発され、低侵襲手術(MIGS)

などの新しい手術方法も考案されてい

ます。

加齢黄斑変性症は50歳以上の1%に

認められますが、抗血管新生薬の登

場

で治療の選択肢が広がり、世界で

初めてのiPS細胞(人工多能性幹

細胞)を用いた臨床治療も始まってい

ます。

高血圧や動脈硬化、糖尿病などによ

る眼底出血も増えています。糖尿病網

膜症は10年間糖尿病を患っている人の

40%近くに認められます。早期の発見

と治療が大切で、糖尿病主治医と眼科

医が連携

## 眼底検査で視力保って

医が連携  
する必要  
がありま  
す。

スマホの普及で「スマホ老眼」と言  
った新しい言葉も生まれています。ス  
マホの長時間の無理な使用はやめま  
しょう。

さまざまな啓発活動が行われる10月  
は「目の愛護月間」と呼ばれるようにな  
ってきました。いつまでもより良い  
視力を保つため、皆さんもこの機会に  
目の健康を考えていただければ幸いで  
す。40歳を過ぎたら、ぜひ眼底検査を  
受けてください。



森下眼科院長

**森下清文さん**

一大阪市北区